



コロサイ人への手紙 囚人、同労者、戦友

パウロとともに囚人、同労者、戦友...

2016.2.18

	コロサイ.	エペソ	同労者 ピレモン	わが子 テモテ	使徒
エパfras	1:7 / 4:12		囚人		
テキコ	-	6:21 患難戦友		エペソに	20:4 テサロニケ人
オネシモ	-		わが子		
アリストルコ	-		同労		20:4 テサロニケ人
マルコ	-		同労	いっしょに来て	
ユスト	-				
ルカ	-		同労	いっしょにいる	
デマス	-		同労	世を愛	
アルキポ	-		1:2 戦友		
⋮					

コロサイ人への手紙の分析をしていますけれど、このコロサイ人への手紙の中で、最後の4章は、個人的な挨拶みたいな感じで「この人を知ってください。この人はこうです。ああです。」という個人名が入ってるのが長いですね。エパfras、テキコ。出だしから、あまり文の中に人の名前は入らないよね。手紙の中で、出だしと終わりにはあるけど、途中にあまり入らないと思います。出だしのところで、「エパfras、エパfras」みたいな感じで、エパfrasが強調されているところから始まっているのは、珍しいなと思っていましたけど、エパfras、テキコ、オネシモ、アリストルコ、マルコ、ユスト、ルカ、デマス、アルキポといっぱい名前が出てきます。

そういえば、ということで一番あつと思うのはオネシモだよね。オネシモが出てるよねって言って、ピレモンも出すじゃない。ピレモンねと思って、オネシモねと思ってみたら、ピレモンの手紙の中には、「エパfras、アリストルコ、マルコ、ルカ、デマス、アルキポ」が出ているので、ピレモンの手紙とコロサイの手紙は一緒に見る。「同労者、同労者、戦友、わが子、囚人」というようなことなので、ピレモンとコロサイは一緒に見て、同じような状況の中で送り合っている手紙だということを、こういう個人名で示唆されているものだと思います。

第2テモテの中にも「テキコをエペソに送りました。マルコと一緒に来てください。ルカは一緒にこっちにいます。残念ながら、デマスは世を愛してテサロニケの方に行ってしまった。」というふうに、第2テモテに書いてありますので、ここでこの手紙(コロ

サイ)とこの手紙(ピレモン)よりは後なのかなという感じです。もっと使徒行伝にこの人たちが出てるのかと思ったら、そうでもなかったのね。ですから、このピレモン、コロサイ、第2テモテあたりを一緒に見ないといけないというようなことだと思います。パウロと共に囚人になっている、同労者である、戦友であるというようなことを教えてくれているこの同労者のリストということですね。